

科目名	畜産飼養 I	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	工藤悟
学科・コース	エコ・コミュニケーション科(2年制)昼一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	(株)マザー牧場勤務、日本大学動物資源科学科 特別講師、PlanningOvis代表						
授業の学習 内容	畜産学、家畜、飼料そして畜産物の入門的理解に重点を置き、動物を扱う現場には、様々な分野の知識が必要であり、各々が独立しているものではなく、密接に関わり合い業務が遂行される事を理解させ、興味を持たせる。また、即戦力として必要な知識を解説する。						
到達目標	畜産学の基礎が正しく理解できる。 家畜が日常生活の衣・食・住を支えている事が理解できる。 即戦力として役立つ知識が理解できる。						
評価方法と基準	定期試験 100% 試験評価:S-Fの基準(S 100~90、A 89~80、B 79~70、C 69~60、F 59~0)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義	講義内容の説明、畜産と生活との関わり、畜産の必要性、現状について理解できる。	時間外学習について：講義中に使用した教科書、配布したプリント。そして、口頭、板書を書き留めたノートの熟読を行い復習すること。また、理解できなかった内容についての質問を整理し次回の講義に備える。 準備学習について：毎回、講義終盤に次回の講義内容の予告を行いますので教科書の該当箇所を熟読すること。
2	4月25日	講義	日本における代表的な家畜(牛・豚・鶏)の品種を紹介すると共に利用目的について理解できる。	
3	5月9日	講義	特別講義『羊の毛刈り』の補足説明と質疑応答を通して理解を深める事ができる。	
4	5月16日	講義	代表的な家畜(牛・豚・鶏)の骨格の構造。そして、特徴について理解できる。	
5	5月30日	講義	代表的な家畜の消化器の構造と特徴。特に反芻動物の消化機能について理解できる。	
6	6月6日	講義	代表的な家畜の生殖器の構造、性周期、妊娠、分娩について理解できる。	
7	6月13日	講義	育種概念。選抜法、交配法の種類、育種改良の重要性について理解できる。	
8	6月20日	講義	飼料が消化・吸収され各種畜産物に変化する一連の過程を理解できる。	
9	6月27日	講義	飼料概念。飼料の一般成分、栄養価について理解できる。	
10	7月4日	講義	飼料の分類、特に飼料の種類とその特徴について理解できる。	
11	7月11日	講義	飼料の給与方法、特に代表的な家畜(牛・豚・鶏)に対する給与方法が理解できる。	
12	7月19日	講義	飼料計算(基本):計算に必要な情報、単位など基本的な事が理解できる。	
13	8月29日	講義	飼料計算(応用):複雑な計算方法が理解できる。	
14	9月5日	試験	筆記試験	
15	9月12日	講義	試験の解説を通して、前期のポイントを整理し理解できる。	前期講義の要点の復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 家畜飼育の基礎 並河澄 他5名共著(農文協)/配布する講義用プリント。				

科目名	種別生態基礎 I	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	土屋俊朗
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制(昼一)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	東京タワー水族館からひかるアクアリウム、サッドアルバーリ及びハナマサ店長、南米、ドイツ、スリランカの水草輸入に関わる						
授業の学習 内容	魚という様々な特徴、生態を持つ生物を販売、展示していく上で必要な知識を得る						
到達目標	分類ごとの特徴、生態などを覚えそれらを展示、販売促進に繋げられるようになる						
評価方法と基準	筆記試験、出席率によるが場合により販売、展示などをクラス内発表しその内容により評価する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	カラシン類について	
2		講義	カラシン類について	
3		講義	カラシン類について	
4		講義	チョウチョウウオ類について	
5		講義	チョウチョウウオ類について	
6		講義	キンチャクダイ類について	
7		講義	キンチャクダイ類について	
8		講義	コイ目魚類について	
9		講義	コイ目魚類について	
10		講義	カダヤシ目魚類について	
11		講義	カダヤシ目魚類について	
12		講義	スズキ目カワスズメダイ科について	
13		講義	スズキ目カワスズメダイ科について	
14		試験	筆記試験	
15		講義	振り返り・ウィークポイントを知る	
準備学習 時間外学習			実習・実験の目的・方法を事前に確認し、終了後に結果をまとめる	
【使用教科書・教材・参考書】 配布プリント 各種図鑑 など				

科目名	卒業研究Ⅱ	必修 選択	必修・選択必修・選択等	年次	2	担当教員 佐伯 宏美
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 2年制 昼一	授業 形態	講義・演習・実習等	総時間 (単位)	60 2	
教員の略歴	1975年4月～2016年6月 鴨川シーワールドに在籍 鯨類の飼育・調教・展示に従事					
授業の学習 内容	水族館における鯨類の展示やトレーニングにおける企画を提案していく 企画内容はまだ白紙の状態であるので、ゼロからみんなのアイデアでプロジェクトを組み立てていく 水族館やお客様のニーズを汲み取り、応えられるものを考え、提案し実践することにより水族館の飼育、トレーニング、展示をより深く理解する					
到達目標	水族館の目的のひとつである教育に関し「楽しみながら学べる」施設であることを深く理解し、卒業研究を通して、「知らないうちに学んでいる」、「お客様に学びながら笑顔になってもらえる」、「企業から求められる・評価される」プロジェクトを企画・提案し取り組んでいく この取り組みを通じて、自分自身が水族館業界で、何が求められ、活躍するにはどうすればよいのかを考え、力を身に付け、成長を実感することを目的とする そして、これらの取り組みを卒業進級制作展(we are TCA)で、水族館の魅力を多くの方々へ伝えることを最終目標とする					
評価方法と基準	出席率(自己管理・継続力)・取り組む姿勢(積極性・主体性)・チームワーク(協働性) レポート提出 プレゼンテーションの実施					

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1	4/17	講義・討議	卒業研究の目的・目標を理解・授業の内容・概要を理解 一年間の進め方を計画			
2	4/24	講義・討議	研究テーマを抽出、内容を検討し、グループ分けを実施 グループごとのまとめ役、記録等役割分担の決定 (卒業研究の目的・目標を理解し、卒業進級制作展(we are TCA) に向けての企画スケジュールをたてることができるようになる)	個人、専攻全体として授業毎に次回までの準備確認と課題設定 を行うこととする。	【個人】前期試験に向けて ①要旨 ②発表	【各チーム】幕張メッセでの発表及び展示に向けて ①要旨 ②発表 ③展示内容(レイアウト) ④展示パネル内容作成
3	5/8	講義・討議				
4	5/15	講義・討議				
5	5/22	討議・発表準備				
6	5/29	討議・発表準備	各グループにおける目標達成までの計画の立案 目標及び今後の進め方についてをまとめ計画をパワーポイントに て発表を実施し、全員が内容を共有する (チームに分かれアイデアの提案や学生同士での発表を通して、 企画力やチームワークを身に付ける事ができる)			
7	6/5	討議・発表				
8	6/12	討議・発表				
9	6/19	講義・討議	各研究テーマにおいて連携できる企業・施設の検討			
10	6/26	プレゼン	連携企業へのプレゼンを実施 各テーマ達成への諸作業の実施			
11	7/3	プレゼン	(選出された企画を企業へ持ち込み、プレゼンテーションを行うこ とで、プレゼン力を身に付ける事ができる)			
12	7/10	プレゼン				
13	8/28	講義	各テーマ達成への諸作業の実施継続			
14	9/4	試験	各テーマに関する進捗状況に関し、各人要旨提出とグループ発 表(レポート締め切り)			
15	9/11	講義	後期に向かっての予定及び行動計画の確認			
準備学習 時間外学習			授業の最後15分間は清掃及び次回までの課題と準備を理解する時間とする。			
【使用教科書・教材・参考書】 各研究テーマに沿った参考資料を随時学生に紹介する						

科目名	卒業研究Ⅱ	必修 選択	必修 選択 必修 選択等	年次	2	担当教員	佐伯 宏美
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 2年制 昼一	授業 形態	講義・演習・実 習等	総時間 (単位)	90 2		
教員の略歴	1975年4月～2016年6月 鴨川シーワールドに在籍 鯨類の飼育・調教・展示に従事						
授業の学習 内容	水族館における鯨類の展示やトレーニングにおける企画を実践していく 水族館やお客様のニーズを汲み取り、応えられるものを考え、提案することにより水族館の飼育、トレーニング、展示をより深く理解する						
到達目標	水族館の目的のひとつである教育に関し「楽しみながら学べる」施設であることを深く理解し、卒業研究を通して、「知らないうちに学んでいる」、「お客様に学びながら笑顔になってもらえる」、「企業から求められる・評価される」プロジェクトを企画・提案し取り組んでいく この取り組みを通じて、自分自身が水族館業界で、何が求められ、活躍するにはどうすればよいのかを考え、力を身に付け、成長を実感することを目的とする そして、これらの取り組みを卒業進級制作展 (we are TCA) で、水族館の魅力を多くの方々へ伝えることを最終目標とする						
評価方法と基準	出席率(自己管理・継続力)・取り組む姿勢(積極性・主体性)・チームワーク(協働力) プレゼンテーションの実施 レポート提出 幕張メッセでの専攻ブースの設営、運営準備						

授業計画・内容								
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)			
1	10/2	実習・演習	連携企業での研究を実施(連携企業がない場合は、各研究テーマの諸作業を実施) 各研究テーマの現場実施課題の抽出、問題点の検討、解決に向けての討議を実施 (採用された企画の制作や現地での活動を行い、制作能力や現場力を身に付ける事ができるようになる) 研究結果のまとめ we are TCA向けの発表・展示準備 課題の抽出、検討、修正を実施 (we are TCAに向け、活動内容を「抄録集(要旨集)」、「パワーポイント」、「パネル」にまとめ、発表の準備ができるようになる)	個人、専攻全体として授業毎に次回までの準備確認と課題設定を行うこととする。				
2	10/16	実習・演習			【個人】後期試験に向けて ①要旨 ②発表			
3	10/23	実習・演習			【各チーム】幕張メッセでの発表及び展示に向けて ①要旨 ②発表 ③展示内容(レイアウト) ④展示パネル内容作成 ⑤展示物(パネル等)の作成			
4	10/30	実習・演習						
5	11/6	実習・演習						
6	11/13	演習						
7	11/20	演習			【全体】幕張メッセに向けてのプレゼンテーション準備 ※企業プロジェクトの課題進捗に応じ適宜実施			
8	11/27	演習						
9	12/4	演習						
10	12/11	演習						
11	12/18	演習						
12	1/15	演習						
13	1/22	講義		各テーマに関する最終確認				
14	1/29	試験		各人要旨提出とグループ発表(レポート締め切り) we are TCAに向けての発表・展示準備	(2月 we are TCAで「発表」や「海洋ブースでのパネルディスカッション」等を通して、プレゼン力を身に付ける事ができるようになる)			
15	2/5	演習		we are TCAに向けての最終確認				
準備学習 時間外学習			授業の最後15分間は清掃及び次回までの課題と準備を理解する時間とする。					
【使用教科書・教材・参考書】 各研究テーマに沿った参考資料を随時学生に紹介する								

科目名	卒業研究Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 コナツツ (小林)
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制(昼一)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	
教員の略歴	潜水士およびダイビングインストラクターとして都内ショップにて25年勤務。					
授業の学習 内容	潜水業務に関わる卒業研究として、本年度は「親子スノーケリング」「ゴミ拾い活動」を通して、持続可能な開発目標(SDGs)を考慮し、現実的に私たちに出来ることを行っていききたいと思います。親子スノーケリングは自然を通して学ぶことの大切さと、ゴミ拾い活動は身近なところから環境保全を考えます。					
到達目標	親子スノーケリングでは資格としてのPADISノーケルガイドを目指し、その知識とスキルを活かし、現実的な集客をし、実施し、安全に海の重要性を理解し、質の高い教育を目指します。 ゴミ拾い活動ではどのようにすればより多くの人に環境保全を伝えられるか?を学びます。					
評価方法と 基準	親子スノーケリングに参加する人数がおおよその目安となります。ゴミ拾いではイベントの回数によります。どれもオリジナルな学生企画を求めます。集客数も大切な要素ですが、各企業様やNPO様に価値があったかであることも重要でありますし、将来性や持続可能な成果(利益)も求めます。					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義	オリエンテーション(自己紹介と内容確認)	
2	4月17日	講義	参加メンバーからの自己紹介	
3	4月24日	講義	グループワーク(役割分担)	
4	4月24日	講義	グループワーク(役割分担)	
5	5月8日	講義	スノーケリングガイド養成コース①	
6	5月8日	講義	スノーケリングガイド養成コース②	
7	5月20日	スノーケリング実習	コースを受ける側をとして学ぶ	
8	5月20日	スノーケリング実習	コースを受ける側をとして学ぶ	
9	5月20日	スノーケリング実習	コースを受ける側をとして学ぶ	
10	5月20日	スノーケリング実習	コースを受ける側をとして学ぶ	
11	5月22日	講義	実習の反省会	
12	5月22日	講義	外部講師によるwebミーティング	東葛進学プラザ講師(小暮様)
13	7月2日	スノーケリング実習	コース開催(千葉みなと水槽)	
14	7月2日	スノーケリング実習	コース開催(千葉みなと水槽)	
15	7月2日	スノーケリング実習	コース開催(千葉みなと水槽)	
16	7月2日	スノーケリング実習	コース開催(千葉みなと水槽)	
17	7月3日	講義	実習の反省会	
18	7月3日	講義	外部講師によるwebミーティング	株式会社キヌガワ営業(飯森様)
19	7月22日	スノーケリング実習	コース開催(葛西臨海公園)	
20	7月22日	スノーケリング実習	コース開催(葛西臨海公園)	
21	7月22日	スノーケリング実習	コース開催(葛西臨海公園)	
22	7月22日	スノーケリング実習	コース開催(葛西臨海公園)	
23	8月21日	講義	実習の反省会	
24	8月21日	講義	外部講師によるwebミーティング	NPO法人海さくら代表理事(〇〇様)
25	8月27日	スノーケリング実習	コース開催(千葉みなと水槽)	
26	8月27日	スノーケリング実習	コース開催(千葉みなと水槽)	
27	8月27日	スノーケリング実習	コース開催(千葉みなと水槽)	
28	8月27日	スノーケリング実習	コース開催(千葉みなと水槽)	
29	8月28日	講義	実習の反省会	
30	8月28日	講義	まとめ	
準備学習 時間外学習		事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びを促す		
【使用教科書・教材・参考書】				
・PADISノーケリングガイドコースマニュアル				

東京ECO動物海洋専門学校

科目名	卒業研究Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員 ココナッツ (小林)
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制(昼一)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2	
教員の略歴	潜水士およびダイビングインストラクターとして都内ショップにて25年勤務。					
授業の学習 内容	潜水業務に関わる卒業研究として、本年度は「親子スノーケリング」「ゴミ拾い活動」を通して、持続可能な開発目標(SDGs)を考慮し、現実的に私たちに出来ることを行っていききたいと思います。親子スノーケリングは自然を通して学ぶことの大切さと、ゴミ拾い活動は身近なところから環境保全を考えます。					
到達目標	親子スノーケリングでは資格としてのPADIスノーケルガイドを目指し、その知識とスキルを活かし、現実的な集客をし、実施し、安全に海の重要性を理解し、質の高い教育を目指します。 ゴミ拾い活動ではどのようにすればより多くの人に環境保全を伝えられるか?を学びます。					
評価方法と 基準	親子スノーケリングに参加する人数がおおよその目安となります。ゴミ拾いではイベントの回数によります。どれもオリジナルな学生企画を求めます。集客数も大切な要素ですが、各企業様やNPO様に価値があったかであることも重要でありますし、将来性や持続可能な成果(利益)も求めます。					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義	後期での実習計画および展開	
2	10月2日	講義	役割分担の確認	
3	9月23日	スノーケリング実習	コースの開催(大房岬自然の家)	
4	9月23日	スノーケリング実習	コースの開催(大房岬自然の家)	
5	9月23日	スノーケリング実習	コースの開催(大房岬自然の家)	
6	9月23日	スノーケリング実習	コースの開催(大房岬自然の家)	
7	9月24日	スノーケリング実習	コースの開催(大房岬自然の家)	
8	9月24日	スノーケリング実習	コースの開催(大房岬自然の家)	
9	9月24日	スノーケリング実習	コースの開催(大房岬自然の家)	
10	9月24日	スノーケリング実習	コースの開催(大房岬自然の家)	
11	10月16日	講義	実習の反省会	
12	10月16日	講義	外部講師によるwebミーティング	東葛進学プラザ講師(小暮様)
13	10月23日	講義	VRとドローンの組み合わせ(打ち合わせ)	
14	10月23日	講義	発表作成および練習	
15	11月6日	講義	外部講師によるwebミーティング	VRおよび水中ドローン講師()
16	11月6日	講義	VRとドローンの組み合わせ(実施)	
17	11月26日	VR実演	VRと水中ドローン体験(千葉みなど)	
18	11月26日	VR実演	VRと水中ドローン体験(千葉みなど)	
19	11月26日	VR実演	VRと水中ドローン体験(千葉みなど)	
20	11月26日	VR実演	VRと水中ドローン体験(千葉みなど)	
21	12月4日	講義	実習の反省会	
22	12月4日	講義	外部講師によるwebミーティング	
23	12月11日	講義	発表作成および練習	
24	12月11日	講義	発表作成および練習	
25	12月18日	講義	発表作成および練習	
26	12月18日	講義	発表作成および練習	
27	1月15日	講義	発表作成および練習	
28	1月15日	講義	発表作成および練習	
29	1月23日	講義	発表作成および練習	
30	1月23日	講義	まとめ	
準備学習 時間外学習		事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びを促す		
【使用教科書・教材・参考書】				
・PADIスノーケリングガイドコースマニュアル				

科目名	卒業研究Ⅱ(早坂ゼミ)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	早坂誠
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制(昼一)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 2		
教員の略歴	有限会社エイチ・ツー代表取締役						
授業の学習 内容	ゼミで制作するための 水草レイアウト水槽の制作・管理・展示の実施。 つくば実験植物園において8/10～8/20に開催されるグラスアクアリウムのワークショップの企画立案・運営の実施。 橋高島屋、夏の水槽展示の設置・水槽管理の実施 カルチャーセンター依頼。夏休み子供向けのワークショップのスタッフ運営 その他予定しているイベントでの水槽制作や水槽管理の実施。						
到達目標	水草レイアウト水槽の制作・管理技術を習得する。 水槽内における構図の作り方を習得する。 ワークショップの企画・運営を実施から、就職後同様の対応力を習得する。 ワークショップを通じて接客技術の向上を習得する。 各イベントの参加により、社会人に向けて適応出来る心理を目指す。 アクアリウム業界を通じて社会に貢献できるシステムを理解し、実践できるようになる。						
評価方法と基準	水槽評価 70% 定期的な管理レポート提出30% 水槽評価項目：水草が健康に生育しているか(20/100)・藻類発生予防と対策が適切にされているか(10/100)・適切な水槽管理がなされていたか(20/100)・班員全員が同じ目標で協力できたか(10/100)・構図がしっかりと組まれているか(10/100)・長期維持ができるか(10/100)・水槽の完成度、美しさ(10/100)・魚にとって棲みやすい環境であるか(10/100) 評価：GPA(S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0)						

2年 卒業研究 授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義	半期の授業内容を説明、当科目の最終目標の水槽例を確認。今後の授業を理解することができ		水草水槽設置
2	4月25日	実習	制作予定水槽の整理整頓・仕組みの再確認と内容の理解		授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
3	5月9日	実習	イベント内容の再確認。スタッフの割り振り		授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
4	5月16日	実習	水槽制作班の決定 構図の制作		授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
5	5月30日	実習	水草レイアウト水槽制作を实践できる。 構図制作		授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
6	6月6日	実習	水草レイアウト水槽制作を实践できる。 構図制作		授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
7	6月13日	実習	水草レイアウト水槽制作を实践できる→ 水草準備・植栽		授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
8	6月20日	実習	水草レイアウト水槽制作を实践できる→ 水槽管理実習		授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
9	6月27日	実習	水草レイアウト水槽制作を实践できる→ 水槽管理実習		授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
10	7月4日	実習	水草レイアウト水槽制作を实践できる→ 水槽管理実習		授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
11	7月11日	実習	つくば実験植物園見学・ワークショップ 運営の企画・運営に対しディスカッション		授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
12	7月18日	実習	水草レイアウト水槽制作を实践できる→ 水槽管理実習		授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
13	8月29日	実習	水草レイアウト水槽制作を实践できる→ 水槽管理実習		授業以外での水槽管理を時間外学習に充てる
14	9月5日	講義・試験	管理レポートの最終提出。水槽評価の実施。		レイアウト水槽をブラッシュアップするために構図、管理方法の見直しを行う
15	9月12日	講義	テスト結果からの振り返りを行うことで、長期間水槽メンテナンス方法の理解を深める		試験範囲から、誤答した箇所の復習を行い理解を深める
準備学習 時間外学習			事後学習を通じて深く学び、準備学習を行うことで授業内での学びの展開を促す。		
【使用教科書・教材・参考書】					
教科書「水草水槽のススメ」 参考資料「デュプラジャパン理想的な水槽」					

科目名	販売基礎 I	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇恵野 雅子
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制(昼一)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	NECグループで福利厚生を行う大型店舗店長を経て、店舗教育などを行い、販売士1級を取得後、専門学校で講師を行う						
授業の学習 内容	<p>売場担当者・販売員として、小売店舗で必要とされるスキル、基本的な仕組み、販売員としての基礎的な知識を身につけてることにより、販売店で必要とされる人材にならないと、販売業務に携わった際、何もできなくなるため、お店で一番必要とされるマーチャндаイジングを中心に理解してもらえる内容です。</p> <p>①商品の仕入れ、に際して計算される原価や値入り率などの計算を繰り返し行う。 ②商品回転率を理解することで、品揃えや、仕入れる量、在庫の考え方を理解する。 ③商品のディスプレイなどに伴う、ゾーニングの基本を覚える。 ④お客様がどうやって商品を選ぶのかを知る。</p>						
到達目標	<p>基本的な商品に対するコストと利益を考え、販売戦略など基本的なことは考えられるようにする。 ビジュアルマーチャндаイジングを中心として、店舗での商品管理を理解する。 お客様にどのように商品を紹介すると喜んでもらえるかなどを理解し実践で役立てるようにする。</p>						
評価方法と基準	授業内での提出物 30%、小テスト(授業内クイズ) 30%、 期末テスト 30%、 授業態度 10%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義	前期の授業内容を説明し、各科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解し、今の現状を知る		
2	4月25日	講義	今の現状からお客様の考えを探る		計算(消費税)
3	5月9日	講義	お客様の嗜好の変化		計算(仕入れ原価)
4	5月16日	講義	お店に置く商品とコンセプト		
5	5月30日	講義	品揃えとディスプレイ		計算(ロス)
6	6月6日	講義	商品売価の設定方法棚割り		計算(原価計算)
7	6月13日	講義	商品をお客様が選ぶ時の購買心理 買い物に男女、年代別の考え方		計算(値入り率)
8	6月20日	講義	お客様と販売店の関係性・時間のとらえ方		計算(粗利率)
9	6月27日	講義	ディスプレイの考え方、色と光源 商品の見せ方		計算(割引)
10	7月4日	Aダイビング講義	店内の音、温度、香りなどやお客様が望む、 店員の態度とは		計算(商品回転率)
11	7月12日	Bダイビング♡			
12	7月19日	講義	商品紹介のリスクとベネフィット販売心理		計算(交差比率)
13	8月29日	講義	期末テスト前の復習		
14	9月5日	講義	前期期末テスト		
15	9月12日	講義	振り返り		
準備学習		時間外学習			
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	販売基礎Ⅱ	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宇恵野 雅子
学科・コース	エコ・コミュニケーション科2年制(昼一)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	NECグループで福利厚生を行う大型店舗店長を経て、店舗教育などを行い、販売士1級を取得後、専門学校で講師を行う						
授業の学習 内容	会社で利益を出していかなければ、会社が存続できず、せっかくみなさんが働かだしても、お給料がもらえなくなります。そのために、会社、又はお店全体での継続的な利益を出すためにはどうすべきかを、学ばなくてはなりません。会社が必要とされる人材になってもらうための授業です。例えば、商品を仕入れる時の経費から、それを売るための売価設定、それにより、どの位の利益が見込めるのか。通常の商品販売と違い、生きた魚を仕入れる。などの特殊な商品を仕入れる業界なので、損益計算がある程度理解できるようにするための、計算がちょっと多めの授業です。						
到達目標	基本的な店全体のコストと利益を考える。お店のコストの中心は人件費です。人件費などの経費を含め、店舗全体の販売戦略の基本を知り、それを元に、自分なりのアイデアを考えられるようにする。マーケティングの基本を学び、実際の販売で役に立つ人材になるようにする。働く上で、自分の人件費と労働がどう結びついていて、どう働かなければいけないか、希望のお給料と、現実のお給料の差を、店全体から見て理解し、店舗でどう出来るようにする。						
評価方法と基準	小テスト(授業内クイズ) 40%、 期末テスト 50%、 授業態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義	前期の授業内容を説明し、当科目の明確な学習の目的、目標、方法を理解し、今の現状を知る	
2	10月11日	講義	会社の組織はどうやって成り立っているか 経常利益は人件費はどうやって出すか	
3	10月17日	講義	損益分岐点とは	値入り率
4	10月24日	講義	固定費と変動費の考え方	損益分岐点計算(1)
5	10月31日	講義	お店でかかる経費を考えて店全体の利益を出すための目標売上の出し方(1)	損益分岐点計算(2)
6	11月7日	講義	お店でかかる経費を考えて店全体の利益を出すための目標売上の出し方(2)	損益分岐点計算(3)
7	11月14日	講義	お店でかかる経費を考えて店全体の利益を出すための目標売上の出し方(3)	損益分岐点計算(4)
8	11月21日	講義	お店の経費と利益などの関係を数字で理解。	損益分岐点計算(5)
9	11月28日	講義	損益分岐点計算	損益分岐点計算(6)
10	12月5日	講義	損益分岐点からどのように販売計画を立てるべきか。	
11	12月12日	講義	移動平均・移動累計	
12	1月10日	講義	労働分配率	
13	1月17日	講義	人時生産性・労働生産性	
14	1月23日	講義	前期期末テスト	
15	1月30日	講義	振り返り	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	プレゼンテーション I 1	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員 野崎広治
学科・コース	エコ・コミュニケーション科(2年制) 昼一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	
教員の略歴	不動産会社・金融コンサルタントを経て、独立。現在は、キャリア相談、採用コンサル、企業研修講師などの活動を行う					
授業の学習 内容	<p>●プレゼンテーションと聞くと「発表」という印象が強いが、広く考えると「自分を表現する方法」である。人間関係、仕事など様々な場面において、より良い結果を導くための考え方、表現、発信の方法を学ぶ。</p> <p>●社会で必要とされること、就職後起こりうることをテーマとして取り上げる。自分の意見を伝える、他人の意見を聞く、対話においてお互いを尊重し、より良い結果につながる力を身につけ、実習や社会で必要とされる人材へと成長して欲しいと願う。</p> <p>●本授業は、講師と学生・学生同士のディスカッションなど双方向の展開とする。そのため、普段一緒にいる仲の良い友人以外の学生との交流、講師への発表などは率先して行うこと。授業の質を高めるか、こなすだけ授業にするかは、学生の取り組み姿勢も影響することを忘れないで欲しい。</p> <p>●知識と技術は授業で学んだだけでは、習得(自分のもの)にすることができない。使いこなすために、学んだことは日常生活で実践を兼ねた復習を必ず行うこと。※CSUと関連性がある内容も含むため、CSU学んだことは理解している前提で授業を進める。</p> <p>●授業内容は学生のリクエスト、状況を見て変更することがある</p>					
到達目標	<p>前期は以下2点を到達目標とする</p> <p>●<論理思考(ロジカルシンキング)> 発言・発表・資料・レポートなどの的確なアウトプットを目指し、物事を整理して正しくアウトプットする土台を作る</p> <p>●<(人間関係含む)仕事・キャリアの考え方> 就職活動、社会人になるにあたり、仕事に関する物事の考え方を身につけ、対応できる土台を作る</p>					
評価方法と基準	<p>授業運営に大きな変更が生じた場合は変更する場合がある。</p> <p>①試験:50%・・・100点を1/2にする</p> <p>②授業態度・提出物50%</p> <p>※②について、授業中の睡眠・電子機器の無許可使用・隠れて使用・人を馬鹿にする行為・仲間外れは即0点とする</p> <p>※提出日までに各自講師へ提出(毎回のアナウンスはしない)。欠席・公欠・分散登校・休講などの理由により、提出日までに提出できない場合は、講師控え室の講師トレーに提出すること(受付窓口へ依頼)</p> <p>※①は評価表を用いて行う(評価項目、評価項目において基準を用いた評価)</p> <p>※①②から最終評価を出す。(S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0)</p> <p>追試・・・筆記試験 ※持ち込み不可</p>					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義・演習	本授業の取り組み方がわかる プレゼンテーションの捉え方がわかる	状況に応じて設定
2	4月25日	講義・演習	論理思考①:論理の意味の理解、論理の流れがわかり、簡単な論理を作ることができる	状況に応じて設定
3	5月9日	講義・演習	論理思考②:論理の意味の理解、論理の流れがわかり、論理を踏まえたプレゼンができる	状況に応じて設定
4	5月16日	講義・演習	ミーティング・ディスカッションの進め方:ミーティングやディスカッションを効果的に進めることができる	状況に応じて設定
5	5月30日	講義・演習	資料作成:資料作成を作成し、原稿を読まずにプレゼンテーションができる	状況に応じて設定
6	6月6日	講義・演習	仕事とキャリア①:社会の仕組み、働く理由、自分のキャリアを考える	状況に応じて設定
7	6月13日	講義・演習	仕事とキャリア②:社会の仕組み、働く理由、自分のキャリアに対して自分なりの解を出せる	状況に応じて設定
8	6月20日	講義・演習	就職活動準備:就職活動の準備、求められることを理解し、今後のアクションプランを考える	授業後課題:履歴書のバージョンアップをする
9	6月27日	講義・演習	セルフマネジメント①:物事の捉え方を学び、様々な事象に対して、効果的な解を出せる	状況に応じて設定
10	7月4日	講義・演習	セルフマネジメント②:物事の捉え方を学び、様々な事象に対して、効果的な解を出せる	状況に応じて設定
11	7月11日	講義・演習	グループプレゼンテーション① プレゼンに向けて情報収集を行う	グループ進捗により各自作業
12	7月18日	講義・演習	グループプレゼンテーション② 情報収集の続きと、発表資料作成	グループ進捗により各自作業
13	8月29日	講義・演習	グループプレゼンテーション③ 発表資料作成の続きと発表、フィードバック	グループ進捗により各自作業
14	9月5日	試験	試験実施	なし
15	9月12日	講義・演習	評価の仕組みを知る。前期の振り返りを行い、学びの言語化、後期へ向けた行動を明確にし成長につなげる	後期の学生生活の過ごし方を考える
準備学習 時間外学習			授業前課題・授業後の課題などあり。適宜提示	
【使用教科書・教材・参考書】				
講師作成資料 Teams ※PC、スマートフォン、タブレットなどの電子機器は許可した場合のみ使用可能				

科目名	公衆衛生 I 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	高山清次
学科・コース	エコ・コミュニケーション科(2年制)昼一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	麻布大学大学院博士課程修了(獣医学博士)						
授業の学習 内容	疾病や健康増進のしくみを学び、理解し明確な知識を持って、動物関係の仕事をする時はもちろんのこと、日常生活においても、この知識を役立てる。						
到達目標	この科目を受講した学生が、動物飼育の仕事に携わる時、公衆衛生の知識を持って、行動できることを目標とする。						
評価方法と基準	定期試験の結果(80%)に平常点(20%)を加味して評価する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義	公衆衛生の概要を把握する。	講義範囲の予習・復習をする。
2	4月21日	講義	動物のよい飼育環境を理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
3	4月28日	講義	①環境衛生について理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
4	5月12日	講義	②環境衛生について理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
5	5月19日	講義	疾病の定義について述べることができる。	講義範囲の予習・復習をする。
6	5月26日	講義	防疫について、実践できる。	講義範囲の予習・復習をする。
7	6月2日	講義	①消毒のしくみについて理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
8	6月16日	講義	②現場において、消毒について実践することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
9	6月23日	講義	①病原体について理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
10	6月30日	講義	②病原体について理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
11	7月7日	講義	ワクチンの仕組みについて述べることができる。	講義範囲の予習・復習をする。
12	7月14日	講義	①ズーノーシスを理解することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
13	9月1日	講義	②ズーノーシスの予防を実践することができる。	講義範囲の予習・復習をする。
14	9月8日	試験	講義範囲の評価試験	試験範囲を勉強し、試験後、見直す。
15	9月15日	講義	評価試験返却・解説・まとめ	講義範囲を振り返り、理解を深める。
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
学校の図書室にある公衆衛生関係の本やインターネットを利用する。				

科目名	疾病と予防 I 1	必修 選択	選択	年次	2・3	担当教員 岩田光一
学科・コース	エコ・コミュニケーション科(2年制)昼一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	
教員の略歴	北里大学獣医畜産学部獣医学科卒 獣医師 学芸員 伊豆シャボテン公園元園長 (公社)日本動物園水族館協会会友 (公社)日本植物園協会名誉会員 (一財)進化生物学研究所客員研究員					
授業の学習 内容	疾病と予防 総論 疾病とはどういったことなのかを理解した上で、総論としてどういった疾病があり、動物に係る者として基本的にどういったことをしなければならないのか(予防と対処)を講義していく					
到達目標	予防の重要性を認識し、日頃から何をすべきかを意識でき、行動できるようとする。					
評価方法と基準	定期試験を基本100%とするが課題や講義への姿勢も加味する。 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月19日	講義	疾病とは、	
2	4月26日	講義	人と動物の共通感染症(ズーノーシス)	厚生労働省HPより動物由来感染症ハンドブック2022をダウンロードし見ておく
3	5月10日	講義	人と動物の共通感染症(ズーノーシス)	動物由来感染症ハンドブック2022をよく読んでおく
4	5月17日	講義	疾病の予防総論	
5	5月31日	講義	疾病と治療	
6	6月7日	講義	疾病の予防詳細	
7	6月14日	講義	疾病の予防詳細	
8	6月21日	講義	感染症に対する対処	
9	6月28日	講義	疾病の発見	
10	7月5日	講義	疾病の治療(ハズハンダリトレーニングなども)	
11	7月12日	講義	感染症予防(防疫の原則や消毒)	
12	7月19日	講義	寄生虫症について	
13	8月30日	講義	前期復習ならびに定期試験に向けて	
14	9月6日	試験	前期定期試験	
15	9月13日	講義	前期定期試験解説	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
動物由来感染症ハンドブック2022(厚生労働省)、改訂版新・飼育ハンドブック1・5				

科目名	動物園飼育論 I 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	柴田和彦
学科・コース	エコ・コミュニケーション科(2年制)昼一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴							
授業の学習 内容	動物園飼育が未経験の学生を講義の中で実的な体験を伝達することによって将来の動物飼養管理を万全な姿勢で臨むことができる力をつける						
到達目標	1 管理下動物の日々の事象からの確な判断ができる即戦力を育てる 2 各事例から本質、根源を探り本質的な思考をする 3 個々タクソンに囚われず飼育の基礎知識、技術を学ぶ、考える 4 飼育の経験例に触れ個々のノウハウを学ぶ 5 飼育と言う仕事を通して自己の成長を図る						
評価方法と基準	定期筆記試験						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月19日	講義	本年の授業目標	
2	4月26日	講義	動物の美醜について(pp使用)	飼育下の動物を注視しておく
3	5月10日	講義	ウサギについて	身近なウサギの飼育を考えておく
4	5月17日	講義	環境の設定について	環境とは何かを考えておく
5	5月31日	講義	スリエについて	栄養配分について知っておく
6	6月7日	講義	晩成性鳥類の人工育雛	裸雛について考えておく
7	6月14日	講義	季節など自然現象について	日本の四季を知っておく
8	6月21日	講義	哺乳類について	他のタクソンの動物と比べておく
9	6月28日	講義	飼育の「方程式」について	自分で考える管理法を考えておく
10	7月5日	講義	鶉鶏の孵卵、育雛	鶉鶏の人工法を知っておく
11	7月12日	講義	繁殖について	繁殖とは何かを考えておく
12	7月19日	講義	サル山飼育について	サル山の特異性を考えておく
13	8月30日	講義	動物ガイドについて	他人への伝え方を学んでおく
14	9月6日	試験		
15	9月13日	振り返り		
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	動物行動学 I 1	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	落合知美
学科・コース	エコ・コミュニケーション科(2年制)昼一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1		
教員の略歴	農学修士、大学勤務(京都大学霊長類研究所、東京大学農学研究科、武庫川女子大学)、NPO法人市民ZOOネットワーク理事						
授業の学習 内容	動物は名前の通り「動く物」であり、その動き(行動)を科学的に理解することは、動物を正しく理解することにつながる。動物種それぞれの行動は、生息環境やその変化に合わせ、長い時間をかけて選択され、淘汰され、進化してきた。そのため、動物を飼育する場合、その行動とともに生態や社会の理解がとても重要となる。 本講義では、心理学(Psychology)や動物行動学(Ethology)の学問を基本として、ヒトを含む動物種全体について学ぶとともに、動物福祉の考え方や環境エンリッチメントの実践にいたるまでを総合的に学習する。授業はZOOMでおこない、スライドや映像を多用します。授業時間中にレポートを完成させ、提出してもらいます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 動物園の動物種ごとの行動について理解する 個体識別についての知識と技術を身につける 行動調査の観察方法と記録方法について知る 動物行動調査の理解とその基本技術について学ぶ 動物園で調査された論文について興味を持つ 自分の意見や感想を記述する練習をする 						
評価方法と基準	授業ごとのレポート 30% 期末テスト 70%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義	イントロダクション: 教員の紹介と前期の授業内容、講義の進め方について	動物の行動理解について確認
2	4月25日	講義	動物園動物に発現する行動と、その問題について。常同行動について知る。	さまざまな飼育動物について知っておく。動物(ヒトも含む)の行動に興味を持ち、考える
3	5月9日	講義	家畜と野生動物の行動の違い。進化の基本と、淘汰と選択について学ぶ。	
4	5月16日	講義	動物行動学(Ethology)の歴史。ローレンツやティンバーゲンについて知る。	
5	5月30日	講義	動物の行動の種類。オペラント条件づけと学習性無力感などについて知る。	
6	6月6日	講義	チンパンジーのショー利用。実際におこなわれている馴致と調教について理解する。	実際の映像などを見て、動物のショーについて正しく理解し、飼育について考える
7	6月13日	講義	本能と学習、社会行動について。動物園のチンパンジーの育児放棄を例に。	
8	6月20日	講義	動物のショー利用。動物園のゾウは幸せなのか? はな子さんの例を参考に。	
9	6月27日	講義	アニマルウェルフェアについて。動物福祉と動物の権利、功利主義の考え方について。	アニマルウェルフェアや環境エンリッチメントについて正しく理解をする。 さまざまな考え方について理解する
10	7月4日	講義	初期の環境エンリッチメント: ハル・マーゴウィッツからシェファードソンまで	
11	7月11日	講義	環境エンリッチメント: その内容と5つのカテゴリー、動物種ごとの行動を理解する	
12	7月18日	講義	環境エンリッチメント: 日本の動物園と環境エンリッチメントの発展を知る。	日本の動物園で実施されている環境エンリッチメントについて関心を持つ
13	8月29日	講義	《復習》動物行動学の歴史から、環境エンリッチメントにいたるまで	今までの講義の疑問点を明らかにしておく
14	9月5日	講義・試験	テスト対策・60分の筆記試験	試験範囲からの予習と対策
15	9月12日	講義	テスト結果からの振り返り	試験範囲からの復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 いま動物園がおもしろい(2004)市民ZOOネットワーク、動物翻訳家(2015)片野ゆか ソロモンの指輪: 動物行動学入門(1949)コンラート・ローレンツ				